

21 世紀の生命を育む

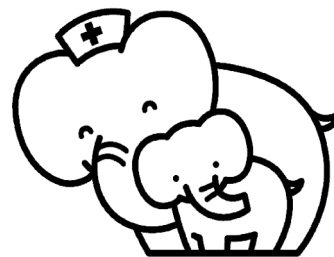
# はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士：新潟大学医学博士，日本小児科学会認定小児科専門医，日本アレルギー学会認定アレルギー専門医  
日本小児感染症学会推薦インфекションコントロールドクター（感染制御医：ICD）



## ぞうさん通信 2010.8.31

はしもと小児科ホームページ <http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

メールマガジン「ぞうさん通信」発刊中。上記 HP よりお申し込みください。

### 喘息発作と気象

今夏は猛暑で、連日 30℃を越しています。お盆を過ぎても暑いままで、9月中旬まで続くようです。

気管支喘息の発作が気候の安定する真夏や真冬に少なく、春や秋などの季節の変わり目とくに梅雨や秋雨の頃に多いことは、従来からよく知られています。小児や若年成人では、秋が喘息発作の最も多い季節です。移動性高気圧や台風などの低気圧が行ったり来たりする時や、寒冷前線が通過する時に、喘息発作が多発することは、臨床現場でしばしば経験されることです。喘息の発作と気象は密接な関係があります。

喘息発作に関係する気象因子としては、気温、湿度、気圧があげられます。これらのうち喘息の悪化因子として最も重要なものは、急激な気温の変化です。前日に比べ 3-5℃以上平均気温が低下した日や、数時間以内に 3℃以上の気温の低下があった場合には、喘息発作が起こりやすいことが知られています。湿度や気圧の直接的な作用については一定の見解は得られていません。

気象因子の間接的な作用としては、気象変化に伴うハウスダストなどのアレルギー原の飛散や浮遊、高温や多湿によるダニやカビの繁殖、心理ストレスなどがあります。

従来、夏には喘息発作は少なかったのですが、最近は冷房の普及により喘息の増悪が認められる場合があります。冷気による気道収縮により喘息発作が誘発されることがあるので、冷房の効き過ぎには注意しましょう。

例年、7月から9月初旬までは喘息発作が少なく、秋分の日を過ぎた頃から発作が多発します。ところが、今年はお盆明けから喘息発作を起こして来院するお子さんが増えています。最高気温は 30℃以上で猛烈な暑さですが、朝晩の気温がお盆前に比べ少し下がったために、気温の日較差が大きくなったためと考えられます。

秋を迎え気温がガクンと下がると、喘息発作が急増します。発作を起こさないためには、ロイコトリエン受容体拮抗剤（商品名：オノン、シングレア、キブレス）の服用や吸入ステロイド（同：アドレア、フルタイド、パルミコート、キュバールなど）の使用を非発作時から励行し、気道の炎症を抑制して気道過敏性を改善しておく必要があります。

ぞうさん通信2010.8.31, 見附市上新田町449-7 はしもと小児科, 院長 橋本尚士  
新潟大学医学博士, 日本小児科学会認定小児科専門医. 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医  
日本小児感染症学会推薦インфекションコントロールドクター (感染制御医:ICD)